

## 一般国道180号総社バイパス特集

# 5年間の発掘調査記録

一般国道180号総社バイパス（総社市窪木～総社）建設に先立つ発掘調査も、今年度で5年目となりました。路線内には窪木遺跡・南溝手遺跡・北溝手遺跡・金井戸遺跡・総社遺跡、計5か所の遺跡が存在しています。発掘調査の結果、弥生時代から近世にかけて連綿と育まれてきた人々の生活・文化の一端を垣間見ることができました。

ここでは、これまで行った調査の成果をみなさんにご紹介したいと思います。



## ① 総社遺跡 発見！戦国武将国府市正の居館

総社遺跡の周辺には古くから戦国武将国府市正の館があったと伝えられていましたが、今回の調査でその一部を確認することができました。国府市正は天正10（1582）年に羽柴秀吉の水攻めを受け自害した、備中高松城主清水宗治の家臣です。調査では戦国時代の土器や刀装具である目貫が出土したほか、大規模な堀や土塁の跡が見つかりました。館をめぐる堀は東西約100m、南北約130mに及びます。発掘調査が地元の伝承を立証した貴重な例といえるでしょう。



館をめぐる内堀



出土した目貫（実物大）



## ② 金井戸遺跡 ③ 北溝手遺跡

### 平安時代の有力豪族の屋敷？

金井戸遺跡では、主に平安時代と鎌倉時代の建物群が確認されました。平安時代の建物は東西両側に庇がある大規模なものです。また、石帯（役人が身に付けていたベルトの飾り）も出土しており、この地方の有力豪族である賀陽氏に関連する人物が住んでいた可能性があります。

北溝手遺跡には建物の跡はなく、鎌倉時代の墓が見つかりました。墓には高級な焼き物である白磁や青磁が副葬されており、一般の人々よりも有力な人物がねむっていたと思われます。



空からみた建物群



墓と副葬された青磁・白磁



弥生時代の焼失住居



石包丁

石斧

石鏃

窪木遺跡出土の石器

## ④ 南溝手遺跡 賀陽郡衙の手掛かりここにあり！

南溝手遺跡では、奈良～平安時代の川から陶馬や瓦が見つかりました。陶馬とは馬の形をした焼き物で、雨乞いや厄よけなどの公的な儀式に使われることもあります。また瓦には賀陽氏の氏寺で、南溝手遺跡の約200m南に位置する栢寺廃寺と同じ文様が施されていました。これらの陶馬や瓦は、いまだ所在のわからない賀陽郡衙（古代の役所）を探す手掛かりになるのではないかと注目されています。



川から見つかった陶馬



栢寺廃寺と同じ文様の瓦

## ⑤ 窪木遺跡 弥生時代から続くムラ

前回の所報39号では古墳時代後期の集落を紹介しました。しかし窪木遺跡では、それ以前の弥生時代中期ごろから人々が住み始めたことがわかっています。弥生時代の竪穴住居は4軒確認されており、その中の1軒では炭化した柱材や焼土が床面に広がっていました。住居に残された遺物は少なく、必要な道具を持ち出して住居を焼いた後、他へ引っ越したと思われます。

さらに遺跡からは、石包丁や石斧、石鏃といった石器類、弥生土器など、当時の人々の生活を知ることのできる遺物が多数出土しています。

（松尾佳子・妹尾昌子）

# センターの年間事業（平成17年度）

	遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1	竹林寺天文台遺跡	浅口郡鴨方町木庄ほか	国立天文台岡山天体物理観測所新望遠鏡施設建設	確認	弥生時代の集落、古代～中世の散布地	6.20～7.13	75㎡
2	下坂遺跡	美作市位田	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	確認	古墳時代～中世の生産遺跡	6.27～7.21	185㎡
3	堂下散布地	美作市殿所	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	試掘	古代～中世の散布地	6.27～7.21	75㎡
4	妙見池1・2遺跡	倉敷市矢部	ため池等整備事業(妙見池地区)	確認	弥生時代～中世の集落	7.19～8.3	65㎡
5	津島遺跡	岡山市いずみ町	岡山県総合グラウンドテニスコート管理棟(クラブハウス)建築	全面	弥生時代～中世の集落・水田	2.13～3.20	95㎡
6	特別名勝後楽園	岡山市後楽園	特別名勝岡山後楽園史跡等保存整備事業	確認	江戸時代の庭園	3.10～3.31	6㎡
7	窪木遺跡	総社市窪木	一般国道180号総社バイパス建設	全面	弥生時代～近世の集落	4.1～12.31	7,674㎡
8	中島城跡ほか	岡山市高島新屋敷ほか	都市計画道路竹田升田線街路改築	全面	中世の城跡ほか	4.1～3.31	8,270㎡
9	大河内遺跡	勝田郡勝央町黒土	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	全面	弥生時代～近世の集落	4.1～9.30	4,000㎡
10	中町B遺跡	美作市中町	一般国道429号特殊改良1種	全面	古代の道路遺構ほか	4.1～5.31	632㎡
11	下町陣屋跡	美作市下町	一般国道429号単県道路改築	全面	下町陣屋に伴う石垣ほか	6.1～6.30	100㎡
12	今岡D遺跡ほか	美作市今岡ほか	中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	全面一次	弥生時代～中世の集落・古墳	4.1～12.31	7,580㎡
13	吉岡廃寺関連遺跡	赤磐郡瀬戸町塩納ほか	主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)道路改築(瀬戸IC)	全面	中・近世の集落遺跡	4.1～9.30	1,900㎡
14	鍛冶屋D遺跡	赤磐郡瀬戸町鍛冶屋ほか	主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)地方特定道路整備事業(アクセス道・山陽道以南)	試掘全面	縄文時代～中・近世の集落・生産遺跡	4.1～3.31	8,835㎡
15	津島遺跡	岡山市いずみ町	中国財務局合同宿舍津島住宅建て替え	全面	弥生時代の集落・水田	4.1～9.30 1.1～2.28	1,940㎡
16	二本木遺跡	和気郡佐伯町宇生	美作岡山道路建設	試掘	弥生～古墳時代の散布地	1.10～2.27	1,400㎡
					合計		42,832㎡

## 調査第一課

平成17年度の調査第一課は、埋蔵文化財の普及啓発、発掘調査（試掘・確認調査を含む）のほか、出土遺物や記録写真の整理・貸し出しなど広汎な業務を行いました。

普及啓発事業としては、一般県民を対象とした考古学講座を4回開催しました。特に、第4回目の講座は、中学生以上を対象とした初の中級講座「土器の見方（須恵器編）」を行いました。一方、中学生の職場体験（11校36名）や高校生（4校49名）・大学生（3名：インターンシップ）をセンターや発掘現場に受け入れ、学習の場を提供しました。8月27日には、第18回「大地からの便り2005～県内発掘調査報告会」を、市町村の協力も得て、岡山県立美術館で開催しました。最近の発掘調査成果と百間川遺跡群をテーマに、スライドを交え発掘担当者による説明を行いました。百間川遺跡群をはじめ県内各地の遺跡から出土し、話題を集めた出土遺物展示コーナーも好評を博しました。12月上旬、「大地からの便りPart 2」を井原市で開催し、井原市文化財センター「古代まほろば館」（百間川遺跡群出土遺物の展示）と井原市民会館（調査報告）を会場としました。また、11月からはイベントや展示室の内容などメールマガジンによる情報発信を開始しました。発掘調査事業は、第一班が5か所の試掘・確認調査を実施したほか、津島遺跡の発掘調査を実施し、加えて市町村指導として2か所の確認調査を実施しました。第二班は、国道180号バイパス建設に伴う発掘調査（窪木遺跡：総社市）と、発掘調査報告刊行に向けての整理作業を行いました。

（岡田 博）

## 調査第二課

本年度は、第一班が都市計画道路竹田升田線街路改築に伴う発掘調査（中島城跡・宮南遺跡・五反地遺跡・国長遺跡：岡山市）を担当し、第二班は一般国道374号（美作岡山道路）道路改築（大河内遺跡：勝央町）、一般国道429号特殊改良1種（中町B遺跡：美作市）、一般国道429号単県道路改築（下町陣屋跡：美作市）の発掘調査、および百間川兼基遺跡・百間川今谷遺跡（岡山市）、仏生田遺跡・中撫川遺跡（岡山市）、姥ヶ谷遺跡（津山市）、さらに大河内遺跡についても調査終了後、報告書整理を行いました。このうち仏生田遺跡・中撫川遺跡、姥ヶ谷遺跡については、報告書を刊行しました。

中島城跡は、昨年度確認した一辺約50mを測る館の北側において、小規模ながら周囲を溝で画された屋敷と村の周辺で畑の存在を確認しました。また、宮南遺跡でも昨年度検出した鎌倉～室町時代の村の続きを確認し、集落西側の様子を知ることができました。五反地遺跡は、国長遺跡から西に下がる河道地形にあって、上層の近世面からは洪水砂に埋もれた鋤などの各種耕作痕跡を検出しました。大河内遺跡は、平野部中央を流れる滝川の河岸段丘面に営まれた、弥生時代前期末から鎌倉時代まで断続的に見られる集落遺跡です。従来山麓を中心に考えられてきた弥生時代集落のあり方を考えるうえにおいて貴重な発見となりました。中町B遺跡は、昨年度中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）建設に伴う中町B遺跡の調査で確認した、古代因幡道と考えられる遺構の続きを検出しました。下町陣屋跡は、江戸時代享保18（1733）年以降幕末まで、旧吉野郡の政治の中心地として、幕府代官所、土浦藩・明石藩の陣屋として機能していました。県下では、陣屋の発掘調査は初めてのことで、一部分ながら石垣構造を解明し、排水溝を確認しました。現地説明会は、国長遺跡・大河内遺跡・宮南遺跡で行いました。

（島崎 東）

## 調査第三課

第一班は、中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）建設に伴う発掘調査・報告書整理（今岡D遺跡ほか：美作市）を担当しました。第二班は、主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路）に伴う発掘調査（鍛冶屋D遺跡・吉岡廃寺関連遺跡：瀬戸町）、中国財務局合同宿舍津島住宅建て替えに伴う発掘調査・報告書整理（津島遺跡：岡山市）、新総合福祉・ボランティア・NPO会館等整備に伴う報告書整理・刊行（南方遺跡：岡山市）を担当しました。

鳥取自動車道の調査は、4～12月に実施しました。特に穴が盗古墳では、県内でも最古級の横穴式石室が検出され、石室内からは銀で装飾された大刀や埋木製の玉などの副葬品が数多く出土しました。丘陵部の今岡D遺跡・高岡遺跡・穴が盗遺跡では、弥生中期～後期の集落、古墳などが検出されました。また、平地部の尾崎遺跡では、古代・中世の建物群を中心に縄文・弥生の遺構・遺物が確認されました。他に2地点で確認調査を行いました。7月23日（土）には、穴が盗古墳の現地説明会を行い、270人以上の参加者がありました。

美作岡山道路関連の鍛冶屋D遺跡（4～3月）・吉岡廃寺関連遺跡（4～9月）では、井戸・溝・流路など縄文～中・近世の遺構・遺物が検出されました。さらに、1・2月には小塚の谷古墳（佐伯町）周辺の試掘調査も実施しました。

津島遺跡は、4～9月、1・2月に調査を行い、微高地と低位部の存在が明らかになりました。微高地では、竪穴住居状遺構・土壙・溝などが、低位部では、水田・溝などの弥生中期～中世の遺構・遺物が検出されました。水田は5面見つかри、その中には周辺では確認されていない弥生後期の水田もありました。7月16日（土）には、周辺住民を対象に現地説明会を開催し、100人以上の参加者がありました。

（中野雅美）

## 考古学入門講座 —この足下に歴史がある—



火起こしと  
塩づくりに挑戦！



この講座は、講義と体験を柱にした内容になっています。本年度後半は、テーマが「塩」(9/17・18)と「須恵器」(1/14・15)。どちらもかつての岡山名物です。ちょっと難しい(わかりやすくしようとしているつもりですが……)講義の内容はさておき、みなさんの関心事はやはり体験実習です。火起こしから始めて海水を煮詰めて行う塩づくりでは、大人も子どもも一生懸命。なんとかおいしい塩ができました。須恵器の図を作成する‘実測’では、みなさん悪戦苦闘の結果、実測の雰囲気は十分感じていただけたようでした。



土器の中にできた塩



須恵器の実測



講義の様子

## 職場体験学習

最近、総合的な学習や進路学習の一環として中・高校生の職場体験学習の依頼が増加し、本年度も11中学校36名、4高等学校49名を受け入れました。

とくに、11月中には5中学校の生徒が相次いで訪れ、それぞれ2日間の体験学習を行いました。1日目は、発掘現場において掘削・実測作業等を、2日目は、センター等において土器の洗浄や復元作業、瓦や貨幣の拓本作業などを体験しました。



「体力もいる仕事で少し疲れました。それを忘れさせてくれたのが土器のかけらが出てきたときの喜びでした。」

「復元で合わせていくうちに色や割れ目の特長などを頼りに探せるようになり面白さが出てきました。」

「たった2日間なのに「おっおっ」と驚くことがたくさんありました。」

「ただ発掘するだけでなく、何のためにつくられたか、どのように使われたかを調べなければならぬことがわかりました。」

「職場体験の後、家族で話が盛り上がりました。」

……等々が生徒の皆さんの感想でした。

## 現地説明会



本年度は、岡山市国長遺跡(4/23)・岡山市津島遺跡(7/16)・美作市穴が途古墳(7/23)・勝央町大河内遺跡(8/20)・岡山市宮南遺跡(11/26)で5回の現地説明会を開催し、約780名の方に参加いただきました。遠く関東・関西・四国方面からの考古学ファンも来られ、足下のロマンを感じていただきました。



穴が途古墳(左上)・大河内遺跡(左)・宮南遺跡(右)の各現地説明会の様子

## 大地からの便り2005 Part 2



遺跡はその地域の歴史そのもの、地域の人たちにもっと知っていただかなければ、ということで、夏恒例の「大地からの便り—県内の発掘調査報告会—」が初めて岡山市内をとび出しました。本年度は井原市教育委員会との共催で、平成17年12月11日に井原市民会館で行いました。内容は、夏の報告会を核にして、開催地の遺跡を盛り込み、さらにこの1週間前からは、開所間もない井原市文化財センターで、百間川遺跡群の出土品もズラリと展示しました。好評をいただきましたので、今後も県内のどこかで開催します。お楽しみに！



- 第1部 井原市内の発掘調査から  
明見銅鐸出土遺跡、高越遺跡
- 第2部 百間川遺跡群の調査から  
調査のあゆみ  
弥生時代から古墳時代  
古代から中世、水田のはなし

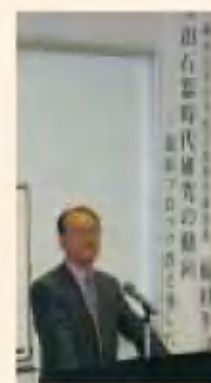


出土品の展示



報告会の様子

## 平成17年度埋蔵文化財担当職員研修会



稲田氏の講演

この研修会は、県及び市町村教育委員会の埋蔵文化財保護担当職員の資質向上のため、隔年で開催しています。本年度は平成18年2月17日、岡山大学教授の稲田孝司氏と久留米市文化観光部の松村一良氏を講師にお迎えして、岡山県生涯学習センターで行いました。

稲田氏の『旧石器時代研究の動向—環状ブロック群と落とし穴—』では、考古資料から当時のムラのような生活を生き生きと描き出していただきました。松村氏は、『筑後国府跡の調査—成果と保存—』と題して、調査成果のみならず埋蔵文化財行政の課題についても示していただきました。参加者は58名を数え、充実した研修会となりました。



松村氏の講演

(正木茂樹・柴田英樹)

## センター収蔵品紹介 vol.3 — 浅川3号墳出土の筒形銅器 —

岡山市東部の吉井川西岸にそびえる、標高156mの大日幡山から北に延びる尾根の先端部付近に浅川古墳群があります。ここを国道2号線のバイパスが横切ることになり、遺跡の確認調査を行ったところ、丘陵上に直径5m・高さ40cm程の小さなふくらみが見つかりました。これまで知られていなかった浅川3号墳の発見です。墳丘は後世の開墾で随分削られていましたが、箱式石棺の主体部は蓋石などが一度も開けられることなく残されていました。



出土状況

平成2年7月30日、石棺内の調査を行うため蓋石を持ち上げたところ、中から鮮やかな朱に染まった頭蓋骨をはじめほぼ完全な人骨が現れました。そして頭骨の横には鏡が、頭骨と小口の側石の間には筒形銅器が置かれていました。



筒形銅器は、円筒形をした青銅の鋳造品で少し裾開きになり、底部はわずかにふくらんでいます。長さ15.3cm・口径2.3cm・底径3.05cmの大きさで、両端と中間に突帯が巡り、その間に細長い長方形の透かし窓が二段4方向に開いている、とても遺存状態の良いものです。中に6cmほどの小鉄棒が入っていました。用途はよくわかっていませんが、口縁側の突帯中央にある1対の目釘穴でとめて、透かし窓の部分中空にし、中の鉄棒が触れて音が鳴るようにしている杖頭の飾りのようなものと考えられます。一部の前期古墳にみられる珍しい遺物で、県内では5点が見つかったのみです。(内藤善史)

## メールマガジン「大地からの便り」

当センターでは、発掘調査報告会・現地説明会・考古学入門講座・企画展示など各種イベントのご案内や、発掘調査報告書等刊行物のお知らせなど、最新の情報をメールでお届けいたします。

ご希望の方は、当センターのホームページまたはハガキ・FAXで申し込んでください。

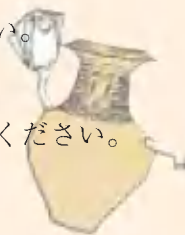
### ホームページから

当センターホームページ (<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>) を開き、メールマガジン「大地からの便り」申込みをクリックして、必要事項を記入してください。

### ハガキ・FAXから

ハガキまたはFAX用紙に①～③の事項を記入して、センター宛に送付または送信してください。

①氏名またはニックネーム ②メールアドレス ③連絡先(氏名・住所・電話番号)



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分  
・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM 8:30～PM 5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM 9:00～PM 5:00  
年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。

育てよう 一人一人の 人権意識 — 思いやりの心・かけがえのない命を大切に —